



おいしいお米ができますように

小学生と日野高生が田植え交流



優しく教えてもらいながら植えました

5月14日、日野高校黒坂施設で、根雨小学校5年生と黒坂小学校5年生が、日野高校生と田植え交流を行いました。

黒坂小と日野高の田植え交流は10年以上続く伝統行事で、今年度は根雨小も参加。小学生と高校生が交流し、一緒に体験することで、お互いに学び合い成長することを目的としています。

最初は恐る恐る田んぼに入っていた子どもたちでしたが、日野高校アグリライフ（農業）系列の生徒たちに苗の植え方や持ち方を教わりながら、元氣よく声を掛け合い、丁寧に苗を植えていきました。

金持テラスひのへの出入りが便利に

町道根雨駅西側線開通式



開通式のテープカット

6月1日、金持テラスひのので、町道根雨駅西側線開通式が行われました。

町道根雨駅西側線は、国道181号J R保線区入口から金持テラスひのを結ぶ路線です。現在の金持テラスひのへの入り口は一つしかなく、イベント時には駐車場が混雑し、事故が発生しやすくなっていました。そのため、出入りする車両の安全の確保、施設利用者の利便性の向上を図ることを目的として、整備を行いました。

開通式では、埜田町長が「利便性の高い道、ぜひ利用していただきたい。ますます金持テラスひの周辺が活性化してほしい」と期待を寄せました。

マスクの寄贈ありがとうございました



▲(株)中海テレビ放送様 マスク 3,000 枚

4月から5月にかけて、町内の町外の企業、団体、個人様より、マスクや中性次亜塩素酸水を寄贈いただきました。心よりお礼申し上げます。  
寄贈いただいた皆さまを紹介いたします。(6月5日現在 順不同)

- 萬栄工業(株) 様
- 橋本辰臣 様
- (有)何でもおさか 様
- (株)鳥取県情報センター 様
- (株)中海テレビ放送 様
- (株)竜建 様
- 錬守会館 様

マスクは、不足している施設へ配布するなど、有効に活用させていただきます。

また、町では、4月に子ども用の手作りマスクの寄贈を募集したところ、急な募集にも関わらず、子ども用だけでなく、幼児用から大人用まで、多くのマスクを寄贈いただきました。寄贈された手作りマスクは、町内の小中学校や保育所、妊婦の人などに配布しました。重ねてお礼申し上げます。



▲(株)竜建、錬守会館様 マスク 1,000 枚

# 獣害対策

お役立ち情報も。そこんこ教えて、木下チーフ！



vol.24

## 電気柵って危険？①

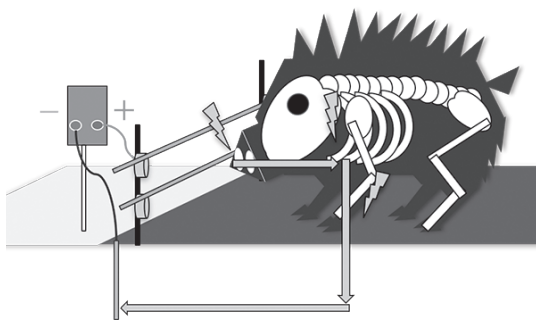
日野町鳥獣被害対策協議会 実施隊チーフ  
木下卓也【問合せ】電話 72-1399

この電気柵に触れても痛みが生じるだけで、死に直結することはありません。ちなみに、ドアノブに触れる時にパチッと痛みを覚える静電気。これがだいたい3000ボルト以上と言われています。この原理と同様だと理解していただくのが早いかなと思います。

また、1秒以上の間隔で電気が流れているので、触れてしまってもすぐに離すことができます。感電して動けなくなるということはありません。

今回は、「そもそも電気柵って危険じゃないの？」という質問にお答えします。よく「電気柵の電圧は、3000ボルト以上あるからチエツクをしてください」とお話ししていますが、「家庭用電源でも100ボルトあるのに、その30倍なんて危険じゃないか？」と考える人は多いと思います。市販の電気柵が安全な理由は、端的に言えば「電気柵の電線に電気が流れている時間は一瞬だから」です。機種によって差はありますが、電線にはずっと絶え間なく電気が流れているわけではありません。約1秒間隔で流れており、電気が流れるのは約0.0001秒という一瞬だけです。小さな面積を囲う電気柵では8000ボルトくらいのは出力が出ることもありますが、

ただし、ペースメーカーなどの機器を装着されている方は、機器に影響を及ぼす可能性がありますので触れないように注意して下さい。



KEEP OUT KEEP OUT KEEP OUT KEEP OUT KEEP OUT KEEP OUT KEEP OUT

### 色とりどりのマスクができました

#### 高尾女性会がマスク作り



さまざまな生地で作る高尾女性会の皆さん

5月15日、高尾公会堂で、高尾女性会が寄贈用の布マスクを作成しました。今回作ったマスクは、日野病院に寄贈するもの。生地とマスク用の紐を持ち寄り、全部で12枚のマスクを作り上げました。マスクを作るのは今回で3回目。これまでに74枚を作り、その内59枚を町に寄贈しています。参加した人は「小さなことでも、何かの役に立てば」「毎年日野病院から講演などをしてもらっていた。そのお返しができるのは嬉しい」と話していました。

## ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第83回

### 「じゃじっぼ」の謎…。

春、山菜採りに出かける時、赤いアスパラの如き植物が生えているのに遭遇します。

それが、日野地域で呼ぶところの「じゃじっぼ」かもしれません。

このじゃじっぼ、正しくは「イタドリ」というタデ科の多年草で、若い莖や葉は食用になります。莖をかじると酸味があり、昔は子どもたちのおやつでもありました。

ところでこの変な呼び名、よその地域では通じないかもしれません。それもその

はず、イタドリには、スカンポ、スッポン、スイバ、ゴンパチ、サイジンコ、シャジナツポ、サシポ：などなど、多数の呼び名があるからです。

「じゃじっぼ」の由来は：はつきり言ってわからなかったのですが、「サシポ」が一番近いのではないかと考察します。地面に刺さったように生える姿から「刺し（挿し）穂」となり、それが「じゃじっぼ」に変化したのではないかと。

異論・反論、絶賛受付中です！

協力：日野町歴史民俗資料館友の会